

校長室通信



南小国町立南小国中学校

令和2年 1月10日(金) No33
文責 狭間卓史



新しい一年

本校での今年の仕事始めは1月6日(月)、そして第4ステージが9日(木)に始まりました。阿蘇郡内の他の小中学校の大半が8日に始まっていたので、一日だけ長い冬休みでした。16日ぶりに多くの生徒が登校(5人欠席)し、令和元年度の最後の三ヶ月がスタートしました。とは言っても本校では冬休み中も多くの生徒が部活動で登校しており、職員もその部活動の指導や入試業務でほぼ毎日出勤という状況でした。「入試業務はミスがなくて当たり前」と言われるだけに、中学校の職員室ではどこも同じなのですが、12月からずっと独特の緊張感に包まれています。

右の写真は1月6日の陸上部の活動の様子です。生徒が凍ったグラウンドを黙々と走り込んでいます。時折外部コーチと部活動顧問のかけ声が聞こえてきますが、グラウンドに響くのは生徒のかすかな足音のみ。それはそれぞれの目標に近づく音であり、新しい一年の始まりを告げてくれる心地よい響きでもありました。澄み切った冬の空気を胸一杯吸い込み、私も清々しい気持ちになりました。

本年もよろしくお願いいたします。



【それぞれの目標を目指して】

春に向かって

今の季節、本校では正門付近から教室前にかけて、パンジー等の花が色鮮やかに咲いています。この苗の多くは本年度からお世話になっている古庄指導員が種子から育ててくださったもので、環境整備担当の興梠教諭と共に管理してもらっています。この季節、学校正門からの坂道を登ってきた時に、パンジーの鮮やかな色が気持ちを高めてくれますが、卒業式の頃にはチューリップの花が咲き、その後には校舎前の桜の花も咲くはずです。少しずつ少しずつ春に向けた準備が進みつつあります。

今年は東京オリンピックの年ですが、生徒一人一人にとっても、それぞれに花咲く準備を進める一年であってほしいと願っています。



【温かな光】

元^{もと}気の素

この正月に私は教え子の同級会に招かれました。20年前に高森中学校を送り出した教え子たちです。この学年とは中学校入学時に学年主任として出会ったのですが、その時の私の年齢が35歳でした。再会した教え子とその時の私の年齢に達していることに感慨深いものがありました。

この学年の教え子は5年おきに同級会を開催していますが、毎回参加させてもらい、教え子の成長を嬉しく眺めさせてもらっています。家庭を持ち家族が増えた者や高齢になりつつある親のことを気にかける者、社会人としても中堅どころにさしかかり、各々が自分のことを最優先することが出来ない状況になりつつありますが、それでも前向きに取り組もうとしている姿に元気をもらえます。会うたびに会話の内容が変わってきているのも成長を感じるところです。もちろん20年という月日は楽しいことばかりでなく、きついこと、つらい経験もしています。そういう経験も含めての今の姿でした。私としてはその元気な姿を見せてくれただけで十分でした。どの教え子もこの同級会を楽しみにしていたとのことですが、会いたいと思える仲間がいることは力を与えてくれることなのだとあらためて思った次第です。

今の南中の生徒も、卒業後に再会を待ち望む仲間として送り出したいとあらためて思えた機会でした。

3年生は40数日、1・2年生は50日。今の学年での仕上げる時間を大切に過ごしてくれることを願っています。



【1月9日の朝】